TRAFFIC ADVICE

★交通教育センターから

●東京都石油業協同組合・カーライフアドバイザー研修
不適正な状態のタイヤの危険性を学ぶ

昨年11月21日、アクティブセーフティトレーニングパークもてぎで、東京都石油業協同組合のカーライフアドバイザー研修が行われた。同組合には東京都内にあるサービスステーション（ガソリンスタンド、以下SS）の約9割が加盟。そのSSのスタッフを、お客様のカーライフ全般についてアドバイスができる人材である「カーライフアドバイザー」として、同組合では育成し、認定している。認定の要件は、クルマの構造からメンテナンスや接客などに関する12の研修項目を受講し、認定テストに合格することである。研修項目の中の「タイヤ実習」はアクティブセーフティトレーニングパークもてぎを利用して行われている。この日の研修には、カーライフアドバイザーをめざす東京都内のSSのスタッフ12名が参加した。

タイヤ実習は、すり減ったタイヤや空気圧の低いタイヤを実際に使用し、これらの状態での運転がいかに危険かを実車で体験することを目的としている。

まず、インストラクターが運転するクルマに受講者が同乗し、ハイドロプレーニング現象を体験。「ハイドロプレーニングとは高速走行時に、タイヤと路面の間に水の膜ができて、クルマのコントロールができなくなる現象です」とインストラクターが説明する。適正な状態のタイヤでは、深さ約3cmの水たまりを75km／hで走行してもハイドロプレーニング現象は起こらない。同じことを、すり減った（スリップサインが出た状態）タイヤ、適正値（指定空気圧）より0・8kg／㎠下げ1・4kg／㎠にしたタイヤを四輪とも装着して体験。今度は、いずれの場合もハイドロプレーニング現象が発生した。

次に、適正な状態と、空気圧を下げた状態のタイヤの違いを受講者が実際に運転して確認する。それぞれのタイヤを装着したクルマでパイロンスラロームを行い、乗り比べる。

「空気圧の低いタイヤのクルマはハンドルを切る時に重たいと感じたはずです。その場合、タイヤを回転させるのに正常な状態よりも大きな力が必要になり、燃費を悪化させることにもつながります」とインストラクターがアドバイスする。この他、ぬれた路面でのABS体験が行われ、タイヤ実習は終了した。

研修を視察した東京都石油業協同組合業務係長の船戸哲也さんは「危険を安全に体験しながら、タイヤの重要性を学べる機会はとても重要」と話す。「タイヤの状態が不適正なままSSに来店するお客様もいます。そうした時に、その状態がなぜ危険か、どのように対処すればいいか、実際に体験していると自分の言葉でわかりやすくお客様に伝えることができるはずです。お客様のクルマに触れる機会の多いSSのスタッフが、専門的な知識を身につけ、お客様の安全を守っていく必要があります」。

東京都石油業協同組合では年1～2回、研修を実施しており、今後もさらに多くのカーライフアドバイザーを育成していく考えだ。

空気圧の低いタイヤを装着したクルマを受講者が運転し、適正な状態のタイヤとの違いを確認する

ぬれた路面でのABS体験

インストラクターの運転するクルマでのハイドロプレーニング現象体験

正しい運転姿勢とハンドル操作についても受講者は学んだ

NEWS REVIEW

● 2008年Honda安全運転普及本部 年末ご挨拶会

お客様や世の中から期待される安全運転普及活動の展開

挨拶を行う福井威夫・本田技研工業（株）社長

昨年12月5日、Honda青山ビルにて「2008年Honda安全運転普及本部 年末ご挨拶会」が開催され、交通関係者約320名が参加した。

報告会では、福井威夫・本田技研工業（株）社長が「社会として取り組むべきテーマである環境と安全については、Hondaは今後も全社一丸となって取り組んできます。安全については、より安全で質の高い製品づくりとともに、お客様や世の中から期待される安全運転普及活動を企業の社会的責任として行っていきます。危険を安全に体験することを原点として、志を高く持ち、より豊かなモビリティ社会の実現に向けて、お客様や社会のみなさま方に共感・信頼されるよう引き続き安全運転普及活動を展開していきます」と挨拶。

続いて、同社の千葉英雄・安全運転普及本部事務局長が、2008年の安全運転普及活動の報告と今後の取り組みについて、写真を交えながら紹介した。

さらに、来賓を代表して深草雅利・警察庁長官官房審議官が挨拶。「Honda安全運転普及本部が、運転者に限らず、全ての人の安全をめざし、ハードであるクルマとソフトである教育・啓発の両面から、交通事故のない社会の実現に向けたさまざまな安全運転普及活動を展開していることに対してあらためて敬意を表します。地域に根ざしたこれらの活動を引き続き積極的に取り組んでいただきたい」と述べた。

会場には、開発中の体験型教育機器「Honda自転車シミュレーター」が展示された

報告会の後には、懇談会が開かれ、交通関係者の交流の場となった。

Hondaグループから SAFETY REPO

●Honda Cars兵庫・セーフティドライバーズスクール「レディース・ベーシックレッスン」
女性ドライバーに運転の不安を解消してもらうためのスクール

昨年11月7日、阪神自動車学院にて、ホンダカーズ兵庫のセーフティドライバーズスクール「レディース・ベーシックレッスン」が開催された。

これは、四輪販売会社のホンダカーズ兵庫が主催する、初心者やペーパードライバーを中心とした女性ドライバーのためのドライビングスクール。同社は、こうしたお客様向けスクールを統合以前の旧ホンダベルノ神戸時代の1997年より実施している。現在は、月1回開催しており、今回で101回目を迎えた。

このスクールでは、会場まで運転してくるのが不安なお客様もいらっしゃることから、担当販売スタッフが参加者を送迎している。また、お子様連れでも参加しやすいよう、スタッフが託児室を利用してお子様をお預かりしている。この日の参加者は6名で、そのうち3名がお子様連れで参加した。

午前中には、車両感覚をつかむ準備走行、スラロームや狭路（クランク・S字）などのコース走行、急制動・ABS体験が行われた。参加者は、普段自宅で利用しているクルマか、販売会社が用意した普段と同じ車種を運転して車両感覚をつかむ。助手席にはそれぞれ担当販売スタッフが同乗し、個別にアドバイスが行われた。今回の全体の進行・説明は、尼崎名神店のチーフ※セーフティコーディネーター坂本優さんが担当した。「緊急時にハンドル操作がしやすく、しっかりブレーキを踏めるように、シートの位置を調整し、正しい運転姿勢で乗車しましょう」など、参加者にアドバイスを行った。

午後は、最初にスタッフがシートベルトの効用を説明し、全ての席での着用を呼びかけた。続いて、参加者自身が実際に発炎筒を点火し、使い方を学んだ。また、車庫入れ・縦列駐車の練習が行われ、スタッフのデモンストレーションでコツや手順を覚えた後、担当販売スタッフのアドバイスを受けながら参加者が実際に何度も練習を行った。

スクールに参加した鶴田絵里子さんは、「自分が購入予定の車種でじっくりと練習できた点がありがたいです。また、ABSの作動や発炎筒の点火を体験できたので、安心感が増しました」と感想を語った。

この日のスクールには、こうした販売会社が主体となった安全運転の取組みを現地での安全運転普及活動計画策定の参考にするため、マレーシアの四輪製造・販売現地法人であるホンダマレーシアから6名が視察に訪れた。

ぬれた路面での急ブレーキを体験

参加者が実際に発炎筒を点火して使い方を学ぶ

担当販売スタッフが、個別に車庫入れ・縦列駐車などのアドバイスを行う

視察に訪れたホンダマレーシアカスタマーリレーション部マネージャー、ジョセフ・キャロルさんは、「ホンダマレーシアでは、ブレーキングの体験やすべりやすい路面の走行体験などを盛り込んだ現地法人主催の安全運転イベントを、今年度は8回開催する予定で実施しています。しかし、個々の販売会社がお客様のニーズにお答えして安全運転のスクールを実施するという例はまだありません。ホンダには、安全の手渡しという考え方があり、マレーシアでも販売会社からお客様への安全運転普及活動を活性化させていく必要があります。今回の視察で日本の販売会社からたくさんのアイディアをいただいたので、どの方法がマレーシアに合うのか検討して現地での活動に活かしていきたいと思います」とマレーシアでの活動の充実を力強く語った。

日本の販売会社の活動を視察するHondaマレーシアの社員

Hondaマレーシア カスタマーリレーション部マネージャー、ジョセフ・キャロルさん

※チーフセーフティコーディネーター＝安全講習会の企画・立案・開催の実技指導ができる、セーフティコーディネーターのリーダー的存在。セーフティコーディネーターとは、お客様に、店頭などで安全アドバイスができるHondaの社内資格を持ったスタッフ